インプット④

横展開の考え方(型×リスク)

判断軸

雑務ごとに「AIの型」と「入力リスク」で判断します

1週間トライで定着

まずは1週間継続し、成果指標を決めます



最後は横展開です。雑務ごとに「AIの型」と「入力リスク」をセットで判断します。同じ型でも、入力に個人情報が多い業務は工夫が必要ですし、逆に公開情報中心ならスムーズに回せます。
まずは1週間トライで定着を目指すのが現実的です。期間を区切ることで、やりっぱなしにならず、成果指標も置けます。例えば、作成時間、件数、手戻り回数、チェックに要した時間など、測れる指標にします。横展開は“増やす”ではなく“安定させる”が先。運用に落ちたものから広げていきましょう。

ワーク⑤

【ワーク⑤】横展開＋1週間トライ計画

設問1

雑務トップ3〜5にAIの型を当てて“向きそう”を選び、リスク(OK/要/NG)も書いてください。

簡易表(雑務/型/リスク):

設問2

1週間トライを1つ決め、担当・頻度・成果指標を書いてください。

担当: _____

頻度: _____

成果指標(例:時間/件数): _____

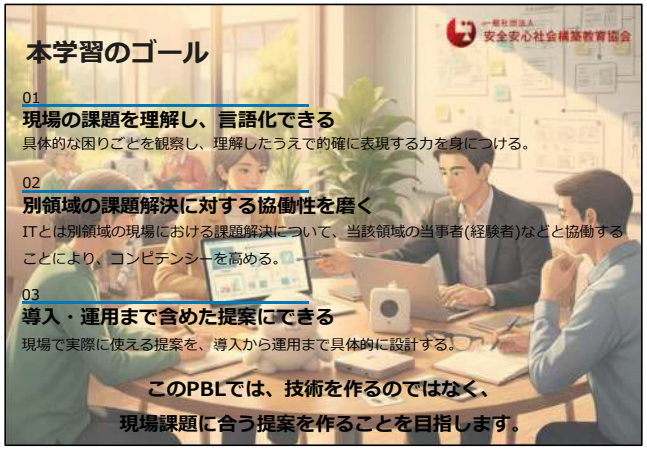
ワーク⑤では、ワーク①で出した雑務トップ3〜5に対して、AIの型を当てはめ、向きそうなものを選びます。簡易表に、雑務、型、リスク（OK／要マスキング／NG）を書き、優先順位を決めてください。
次に1週間トライを1つ選び、担当、頻度、成果指標を具体化します。担当が曖昧だと続かないので、必ず責任者を置きます。頻度は週に何回、どのタイミングで使うかまで決める。成果指標は、時間短縮だけでなく、ミス減少、共有のしやすさ、問い合わせ削減なども候補です。これで“学びを現場で回す計画”が完成です。



「介護施設におけるロボット・IT・AI活用」
このPBLでは、介護現場の困りごとを理解し、解決につながる提案をつくることを目指します。
見学や調査で得た事実をもとに、チームで課題を言語化し、導入から運用まで含めた現実的な企画にまとめていきましょう。



PBLはProblem-Based Learning、課題解決型学習の略です。
PBL学習の特徴として、４つ提示します。
まず、先生から答えを教わるのではなく、学生自身が課題を見つけ、調べ、考え、試すことで学びを深めます。
次に、現実の課題に対する取組みです。単に教室にて考えて終わるのではなく実際の社会や現場で発生している問題をテーマとした取組となります。
続いて、協働です。チームメンバーと協力し、コミュニケーションを取りながら課題解決に向けた取り組みとなります。
そして、実践的な問題解決能力の向上が挙げられます。これまでの学習で得た知識やスキル、分析力、問題解決能力など、社会で必要とされる業務遂行能力の向上も挙げられます。



このPBLのゴールは3つです。
1つ目は、介護現場の課題を理解して言語化できることです。具体的な困りごとを理解したうえで的確に表現する力を身につけましょう。
2つ目は、ITとは別領域である介護の当事者と協働し、相手の視点で考える力を磨くことです。別領域の現場における課題解決について、当該領域の当事者などと協働することにより、コンピテンシーを高めましょう。
3つ目は、導入・運用まで含めて実際に使える提案にすることです。現場で実際に使える提案を、導入から運用まで具体的に提示できることを目指しましょう。
この学習では、技術を先に決めず、現場の困りごとを起点に提案を組み立てましょう。



学習は4つのフェーズで進みます。
Phase1はオリエンテーションで、PBLの進め方と背景理解を行います。
Phase2は介護の現状整理と施設の事前調査、見学による課題を把握し整理します。
Phase3で現場の課題解決に向けた企画のコンセプトを固め、発表シートを作成します。そして最後に、発表と講評を受けて改善点を整理します。
Phase4では、介護施設などで活用されるシステムの機能拡張に関するアイディアを考案・提案します。

学習スケジュール①

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

	項目	実施内容
①	オリエンテーション	・講師紹介、PBLおよび本講座のテーマ説明 ・グループワークアイスブレイク ・人口減少における島嶼部の課題概要講義 ・ワーク①«奄美大島が抱える課題整理» ・各グループ発表
②	介護業界の現状理解	・介護業界の現状・課題に関する講義 ・ワーク②«介護業界の課題整理» ・ワーク③«奄美大島における介護業界の課題整理»
③	介護施設の現状理解	・[illegible]施設の紹介（2か所） ・ワーク④見学する施設の事前調査 ・ワーク⑤課題の仮説 ・発表 ・まとめ（見学事前確認、アンケート）
④ ⑤	介護施設の理解	・施設見学【移動など含め２時間程度】 ・ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理» ・発表
⑥	企画の考案	・ワーク⑦«企画のコンセプトシート作成» ・発表【15分】 ・まとめ【15分】（今後の流れ確認、アンケート

ここでは学習スケジュールの前半を確認します。
いつ何をやるかを先に共有しておくと、調査やワークの質が上がります。
特に「事前調査→見学→整理→企画」の流れはつながっているので、前の活動のアウトプットを次に持ち越すことがポイントです。チーム内で役割分担と期限を決め、遅れが出ないように進めましょう。
大きな学習の流れとして、オリエンテーション、介護業界の現状理解、介護施設の現状理解、そして企画の考案となります。

学習スケジュール②

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

	項目	実施内容
⑦ ⑧ ⑨	企画の考案	・ワーク⑧«企画発表シートの作成» ・中間発表・講評（講師＋学生同士） ・発表シートの改善方針策定、作成
⑩ ⑪	企画の考案	・ワーク⑨«企画発表シートの完成»
⑫	発表・講評	・グループ発表＋講評 ・まとめ（総括）
⑬ ⑭	機能拡張企画の考案	・講義 ・ワーク⑩«機能拡張考案シートの作成（個人）»
⑮ ⑯ ⑰	機能拡張企画の考案	・講義 ・ワーク⑩«企画拡張企画発表シートの完成（グループ）»
⑱	発表・講評	・グループ発表＋講評 ・まとめ（総括）

こちらは学習スケジュールの後半です。企画の具体化や発表準備は時間がかかるため、途中で方向性を確認しながら進めることが大切です。発表は“技術紹介”にならないよう注意し、課題と企画の関係が伝わる構成にします。
中間発表では、学生同士で発表を行い、他グループからの意見やアドバイスで得た指摘は、最終発表への改善に直結します。
そのうえで、最終発表を実施します。そして、発表における講師やゲストの講評、振り返りまで行うことなります。

アイスブレイク

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

テーマ：奄美大島に新しいテーマパークをつくる！！！

【進め方】
① 項目ごとにアイディア出し
以下の各項目について、**全員が１人１案ずつ**出してください。**重複は無し！**
・メインターゲット
・場所
・「奄美大島といえば○○」
・メインアトラクション

② グループで選択・組み合わせ
出そろった案の中から、**各項目につき1つずつ選び**、
グループの**「遊園地案」**を完成させてください。

③ グループ案を発表（30秒～1分）
【ルール】
・否定・評価なし
・1人1案・全員発言
・発想を楽しむことを重視



今後のグループワークを円滑に進めていくために、アイスブレイクを実施します。
今回のアイスブレイクは「奄美大島に新しいテーマパークをつくる」がテーマです。
進め方は各項目ごとにまず個人でアイディアをだしていきます。
メインターゲット、場所、「奄美大島といえば○○(まるまる)」、メインアトラクションの項目です。
全員が1人1案ずつ出してください。
そのうで、グループとして個人のアイディアを組み合わせながらテーマパーク案を完成させてください。
グループでは、否定や評価はせず、発想を楽しむのがルールです。
最後に組み合わせてグループ案を完成させ、30秒～1分で発表します。
完璧なアイディアを作るのではなく、グループにて発言しやすい空気づくりが目的です。

Phase１　オリエンテーション
人口減少における島嶼部の課題理解

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

○概要
・日本全体と島嶼部の人口減少の違いを確認し、奄美大島の現状を踏まえて**人口減少が地域の暮らし、医療・産業に与える影響**を整理する。
・グループで**奄美大島が抱える課題を具体化・優先順位付け**する

○理解目標
・地元である**奄美大島の人口減少による課題**を理解する
・**人口減少による「負のスパイラル」**を理解する
・課題を **「誰が／いつ／どこで／何に困る」** で具体化できる

○時間（合計）
・講義：15～20分
・グループワーク：20～30分
・共有：5分（任意）

○成果物（アウトプット）：　課題整理シート



Phase1　オリエンテーション人口減少における島嶼部の課題理解
ここでは、人口減少が島の暮らしや医療・産業に与える影響を整理します。
日本全体と奄美大島の現状を踏まえて、地域課題を具体化し、優先順位付けまで行います。理解目標は、人口減少の課題と「負のスパイラル」を理解し、課題を「誰が／いつ／どこで／何に困る」で表現できることです。
成果物は課題整理シートです。

島嶼部の人口減少（奄美市の現状）

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

日本全体で人口減少が進行するなか、奄美市の現状を把握しましょう。

奄美市の減少率（8.2%）は全国平均（2.6%）の **約3.15倍**。

	年	日本全体	奄美市
人口の推移	2015年	1億2,709万人	43,195人
	2020年	1億2,614万人	41,390人
	2025年	1億2,380万人	39,636人
10年間の減少数	2015-2025	▲329万人	▲3,559人
10年間の減少率	2015-2025	約2.6%減	約8.2%減

奄美市の人口減少の現状を確認します。全国平均と比べて減少率が大きいことは、地域の労働力やサービス維持に影響します。数字は「危機感をあおるため」ではなく、課題の大きさを客観的に捉えるための材料です。
奄美市は、２０１５年～２０２５年までの１０年間における人口減少率について日本全体と比較した際に、約３．１５倍であることがわかり、日本の中でも人口減少が進んでいることが分かります。

島嶼部の人口減少（奄美市の現状）

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

年齢 区分	1960 (S35)	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	2020 (R2)
0~14	38.8%	31.4%	27.2%	26.3%	18.2%	15.2%	13.8%
15~64	54.3%	59.9%	62.2%	61.3%	60.7%	59.0%	53.7%
65~	7.0%	8.6%	10.6%	12.4%	21.1%	25.8%	32.5%

【１５～４９歳男女別人口の推移】



1960年～2020年

０～14歳：約３分の1

６５歳以上：約４.５倍

１５歳～４９歳

３０年間で約２分の１

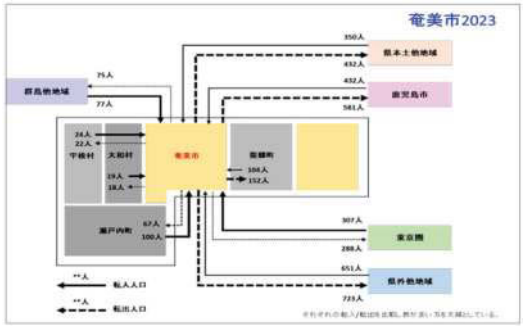
（2025年末日 12,644人）

出典：奄美大島人口ビジョン2025

次に、15～49歳の人口推移を見ます。
１９６０年では全体の４割近くが０歳～１４歳であったことが分かります。そこから２０２０年では13.8%になり、約3分の1程度になっています。一方で、65歳以上が７%が32.5%まで増えていることも分かります。ここから少子高齢化が進んでいる現状がわかります。
15歳～64歳については、1960年から2020年の間で割合としては、一時的に増えてからまた戻ったように見えます。
しかしながら、15歳～49歳の人口を見ると、1990年で2万4千人であったのが、2020年で1万3千5百人になっています。この30年間で半分近くまで減少しているのです。
つまり、15歳～64歳の中でも比較的若い世代は少なくなっていることがわかります。

島嶼部の人口減少（奄美市の現状）

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会



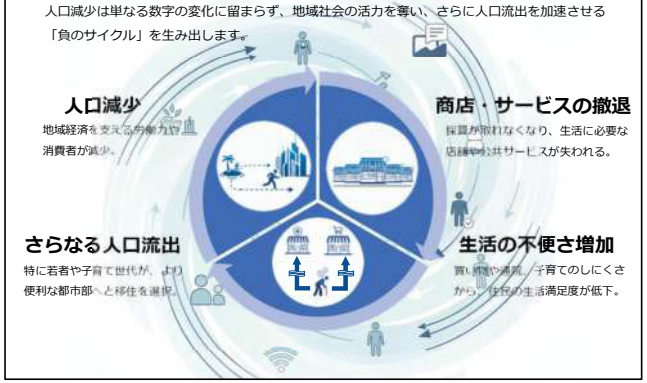
出典：奄美大島人口ビジョン2025

これは、奄美市が提示している人口の転入と転出のイメージです。
奄美大島内では、龍郷町(たつごうちょう)以外の周辺地域から人口が転入しているのが分かる。
一方で、鹿児島市や鹿児島県の他の地域、鹿児島県以外の地域に転出している人が転入よりも多いことが分かる。
例外として、東京圏からは転入者のほうが転出者よりも多い結果となっている。

人口減少による「負のスパイラル」

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

人口減少は単なる数字の変化に留まらず、地域社会の活力を奪い、さらに人口流出を加速させる「負のサイクル」を生み出します。



人口減少による「負のスパイラル」を確認します。人口減少は単なる数字の変化に留まらず、地域社会の活力を奪い、さらに人口流出を加速させる「負のサイクル」を生み出します。
人口が減少することによって経済規模が縮小し、採算の取れなくなった商店やサービスが撤退してしまいます。それにより、買い物や通院、子育て関係などに関して、移動距離がながくなり、生活の不便さが増えます。
その結果、若者や子育て世代が都市部へ移り、さらに人口が減る、という循環がうまれてしまいます。

Phase１　オリエンテーション
人口減少における島嶼部の課題理解

ワーク①«奄美大島が抱える課題整理»

① 個人ワーク｜生成AIで課題を収集（５分）
- ・生成AIを使い、奄美大島が抱える課題を複数収集
- ・分野は自由（医療・介護、交通、買い物、行政、教育、産業、防災など）
- ・各課題について **概要を1～2行** で整理する

▶ アウトプット：**課題候補（3～5個）**

② グループ内共有｜テーマ選定（10分）
- ・個人で集めた課題をグループ内で共有
- ・重複や共通点を整理し、課題候補を一覧化
- ・影響の大きさ・重要性・関心度をもとに **テーマを選定**

▶ アウトプット：**グループで選んだ課題テーマ（1つ）**

③ グループワーク｜課題の深掘り（15分）
- ・課題を次の型で整理
- **・誰が／いつ／どこで／何に困るか**
- ・影響・原因・関係者を整理し、課題の構造を明確化



ここからワーク①に入ります。まずは、奄美大島が抱える課題を整理します。
手順は以下の通りです。
①個人ワークで課題を収集します。生成AIを使い、奄美大島が抱える課題を複数収集します。ここでは分野は問いません。自分の関心ごとなどでもOKです。
そのうえで課題の概要を1～2行で短くまとめましょう
②グループで個人ワークの結果を共有します。
重複しているものや共通点などを整理、課題候補を整理しましょう。
③グループワークで課題を深掘りします。
課題を「誰が／いつ／どこで／何に困る」で具体化しましょう。影響や原因、関係者などを整理し、課題の構造を明確化します。

ワーク①«奄美大島が抱える課題整理»
～個人ワーク(課題の収集)～

分野	課題概要

ワーク①の個人作業パートです。ポイントは、分野を限定せず幅広く集めることです。
医療・介護だけでなく、交通、買い物、行政、教育、防災なども視野に入れます。各課題は1～2行で要約し、できれば根拠になりそうな情報もメモします。
AIを使う場合は、出典や具体例があるかを確認し、鵜呑みにしない姿勢が大切です。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク①≪奄美大島が抱える課題整理≫
～グループワーク(課題の深掘り)～

項目	内容
課題の概要	
選んだ理由	
具体的な例	
課題の影響	
原因	
現時点での対応策と限界	

ワーク①のグループ作業パートです。個人で集めた課題を一覧化し、共通点や因果関係を整理します。そのうえで、影響が大きいか、現場で起きていそうか、解決の必要性が高いか、などの観点でテーマを絞ります。深掘りでは「誰が／いつ／どこで／何に困る」を軸に、原因と影響、関係者を言語化して課題構造を明確にします。

Phase2　介護の現状課題の整理

介護業界の現状理解

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇概要

・介護業界の基礎的な知識として、介護サービスの種類、介護施設の役割、介護士の仕事の全体像を学ぶ。
・介護士の業務や、利用者を支えるために行われている多様な業務・判断・配慮を具体的に理解する。

〇理解目標

・介護業界の基本的な仕組み（施設の種類、サービス内容、対象者）を説明できる
・介護士の主な業務内容を理解できる
・介護士の仕事が、人との関わり・安全配慮・判断の連続で成り立っていることを理解できる
・人手不足や高齢化が、現場の業務量や負担にどう影響しているかを説明できる
・介護現場において、IT・ロボット・AIが補助できそうな業務領域を考え始められる

〇時間（合計）

・講義：15～20分
・グループワーク：20～30分
・共有：5分（任意）



〇成果物（アウトプット）：　課題整理シート

Phase2　介護の現状課題の整理　介護業界の現状理解
これから、介護業界の現状と、介護士の仕事について学んでいきます。この講義は、介護の専門知識を覚えることが目的ではありません。この後に行う施設見学やPBLに向けて、介護現場を正しく理解するための土台を作ることが目的です。まず、介護業界についてです。介護施設には、入所型や通所型などさまざまな種類があり、高齢者一人ひとりの生活を支える役割を担っています。介護は、特別なときだけ行われるものではなく、食事、入浴、移動、見守りなど、日常生活そのものを支える仕事です。次に、介護士の業務について見ていきます。介護士の仕事は、身体介助だけではありません。利用者の体調や様子を観察し、安全に過ごせるように判断し、他の職員や医療機関と情報を共有することも重要な業務です。つまり、介護の現場は人との関わり、判断、安全配慮の連続で成り立っています。一方で、人口減少や高齢化が進む中、介護現場では人手不足が大きな課題となっています。少ない人数で多くの業務を担う場面も増え、職員一人ひとりの負担が大きくなっています。この講義のあとに行うワークでは、「どの業務に負担がかかっていそうか」「なぜ人の手が必要なのか」という視点で、介護現場を整理してもらいます。

介護業界とは

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

・高齢者や障がいを抱える人の**「日常生活」**を
支えるサービスを提供する重要な業界
・医療とは違い**「治す」**より生活を**「維持する」**



ここから介護業界の基礎理解です。
介護は、高齢者や障がいのある方の「日常生活」を支える重要なサービスで、医療のように“治す”よりも“生活を維持する”ことに重きがあります。
この違いを理解することで、現場が求める支援や技術の方向性が見えてきます。利用者の生活の質を守る視点で、課題や改善を考える準備をしましょう。

介護施設・サービスの種類

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

・特別養護老人ホーム（特養）
・介護老人保健施設（老健）
・介護付き有料老人ホーム
・グループホーム
・デイサービス
・訪問介護　など



介護施設・サービスの種類を確認します。
特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、有料老人ホーム、グループホーム、デイサービス、訪問介護など、提供する支援や利用者像が異なります。
企画を考える際は「どの種類の施設・サービスを想定するか」で課題も解決策も変わります。見学先がどのタイプに近いのか、利用者の状態や職員体制も含めてイメージできるようにしておきましょう。

民間・非営利法人 一覧表

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

特別養護老人ホーム（特養）	×	○	社会福祉法人
介護老人保健施設（老健）	×	○	医療法人 / 社会福祉法人
介護付き有料老人ホーム	○	×	株式会社
グループホーム	○	△	株式会社 / 社会福祉法人
デイサービス	○	△	株式会社 / 社会福祉法人
訪問介護	○	△	株式会社 / 社会福祉法人 / NPO

・特養、老健は非営利法人のみ
・グループホーム、デイサービス、訪問介護は△
→大半が民間

民間と非営利法人の関係を押さえます。特養や老健は非営利法人が中心で、制度や運営の制約が比較的大きい一方、グループホームやデイサービス、訪問介護は民間事業者も多く、運営形態が多様です。提案を作るときは、費用負担、意思決定のプロセス、導入のしやすさが変わることを意識します。

施設・サービスを利用する流れ

（1）本人・家族が市町村へ要介護認定を申請
（2）市町村が認定調査を実施
（3）調査員が心身の状態を確認、主治医意見書を依頼
（4）主治医が意見書を作成
（5）介護認定審査会で専門家が審査
（6）市町村が**要支援1・2、要介護1～5**を認定
→認定区分に応じて、各施設・サービスを利用



施設やサービスを利用するまでの流れです。要介護認定の申請から調査、主治医意見書、審査会の判定を経て、要支援・要介護の区分が決まります。
区分によって利用できるサービスが変わるため、現場の業務や記録、連携もこの制度に沿って動きます。介護DXを考えるときは、制度上必要な手続きや記録を理解したうえで、どこを効率化できるかを見立てます。



要支援区分のイメージです。要支援は、日常生活は概ね自立しているが、部分的な支援が必要な状態で、デイサービスや訪問介護などが利用されます。
ここでは「見守り」や「軽度の支援」が中心になりやすく、転倒予防や生活リズムの維持が重要です。



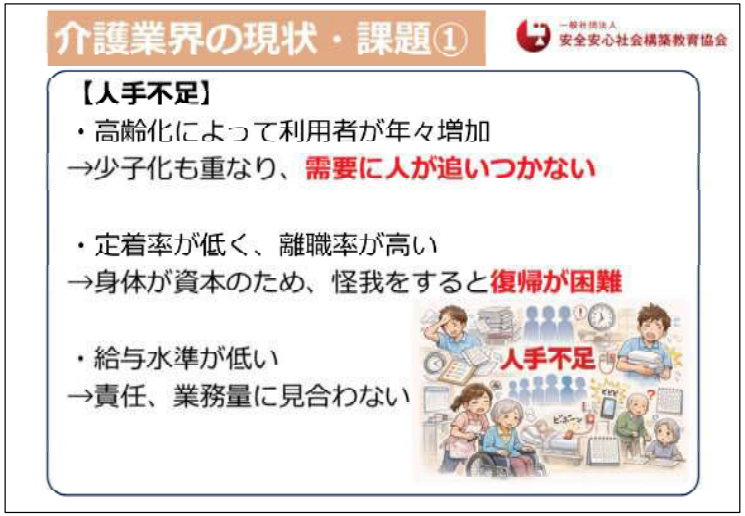
要介護区分のイメージです。要介護は1～5に分かれ、数値が大きいほど介助量が増えます。
特養は要介護3～5が中心で、老健は要介護1～5が対象です。
移乗や排せつ、入浴など身体介助が増えるほど、職員の負担や事故リスクも高まります。



介護業界の職種を確認します。直接介護を行う介護士や訪問介護員だけでなく、相談・調整・計画を担う生活相談員、支援相談員、ケアマネジャーなど多職種が関わります。現場課題は一つの職種だけでは解決しません。提案では「誰の業務がどう変わるか」を職種ごとに描くことが大切です。



介護士の主な業務を整理します。食事・入浴・排せつ介助、移乗や移動の介助、見守り、レクリエーション、介護記録、申し送りなど多岐にわたります。業務が多いほど、優先順位付けや時間管理、情報共有が難しくなり、ミスや負担につながります。提案を考える際は、業務の流れのどこで詰まりが起きやすいか、どの場面が危険か、観察する視点を持ちましょう。



介護業界の課題①は人手不足です。高齢化で需要が増える一方、少子化で働き手は減り、定着率の低さや離職率の高さも問題になります。身体が資本の仕事で、怪我をすると復帰が難しい点も影響します。さらに給与水準が責任や業務量に見合わないと感じられやすいことも課題です。現場の負担を減らす仕組みづくりが、DX導入の重要な背景になります。



介護業界の課題②は身体的・精神的負担の大きさです。移乗や移動介助などで腰や膝を痛めやすく、慢性的な負担が蓄積します。また、認知症などが背景にある暴言やハラスメントへの対応も、現場の精神的負担になります。単に効率化するだけでなく、安全性、負担軽減、メンタル面の支援まで視野に入れた提案が求められます。現場の“しんどさ”を具体的に捉えましょう。



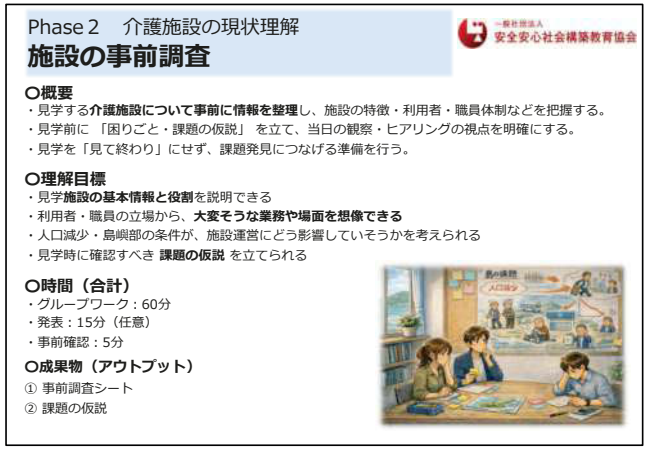
介護業界の課題③は外国人労働者の受け入れと育成です。人手不足を補うため受け入れが進む一方、言語や文化の違いで利用者とのトラブルが起きる可能性があります。教育担当者が付き添うことで現場負担が増えることもあります。DXは翻訳や学習支援、業務手順の見える化など、育成の負担を減らす方向でも活用できます。課題を“人の問題”だけで終わらせず仕組みで考えます。



ここまでのまとめです。介護現場には、人手不足、身体・精神的負担、外国人職員の育成など複数の課題が重なっています。だからこそ、介護ロボットやIT活用が注目されています。ただし導入すれば自動的に解決するわけではありません。現場の流れに合うか、運用できるかが重要です。



介護ロボット活用の例です。移乗や移動介助を助ける機器は、事故を減らし、職員の負担軽減につながります。装着型の支援機器は腰痛対策にも有効です。また、コミュニケーションロボットは利用者の話し相手になり、孤独感の軽減や情緒面の支援に役立つ場合があります。重要なのは、施設の課題と利用者状態に合う用途を選び、導入後の運用まで設計することです。



Phase 2　介護施設の現状理解　施設の事前調査
見学する介護施設を事前に調べ、施設の特徴や利用者、職員体制を把握します。見学前に「困りごとの仮説」を立てておくことで、当日の観察やヒアリングの質が上がります。見学を“見て終わり”にせず、課題発見につなげる準備が目的です。成果物は事前調査シートと課題仮説です。調べた情報は、根拠として残しておきましょう。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク②«介護業界の課題整理»

項目	内容
介護業界の現状	
主な課題	
課題の原因	
課題の影響	

ワーク②は介護業界の課題整理です。
まず、介護業界の現状を整理し、主な課題を端的に抽出します。
そのうえで課題の原因と影響について掘り下げ、記入します。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク③«奄美大島における介護業界の課題整理»

項目	内容
奄美大島の地域特性	
地域特有の介護課題	
全国課題との比較	

ワーク③は奄美大島における介護業界の課題整理です。
まず、奄美大島の地域特性について整理し、地域特有の介護課題を掘り下げます。
そのうえで全国の課題と比較し、共通する課題、奄美特有の課題、深刻な課題、課題解決が優先される課題などの視点から、分析します。

Phase２　介護業界の現状理解

人口減少における島嶼部の課題理解

ワーク④«見学する施設の事前調査»

施設の基本情報を収集（20分）

・施設のWEBサイトや生成AIを使い、見学する施設の情報を収集

・見学する施設

グループA、B、C　→　奄美佳南園

WEBサイト：https://www.seirei.or.jp/elderlyhome/amami/index.html

グループD、E、F　→　虹の丘

WEBサイト：https://nijinooka.net/



事前調査では、施設の基本情報を収集します。Webサイトや生成AIも活用し、施設の種類、定員、提供サービス、職員配置、特徴的な取り組みなどを整理します。グループごとに見学先が異なる場合は、調査項目をそろえて比較できる形にすると効果的です。調べながら「現場で何が大変そうか」「どこに改善余地がありそうか」を想像して、見学当日の質問候補も作っておきましょう。

ワーク④«見学する施設の事前調査»

項目	内容
施設名	
施設の種類	
利用者の特徴	
職員の職種構成	
提供している主なサービス内容	

ワーク④は、見学施設の事前調査シートです。
調べた情報を“書きっぱなし”にせず、見学で確認したいポイントにつなげます。例えば、利用者の状態像、職員の動線、記録の方法、コミュニケーションの取り方など、観察の観点を具体化します。調査結果は、見学後の課題整理にも使います。チームで分担して調べ、最後に一つのシートに統合して完成させましょう。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク④«見学する施設の事前調査»

項目	内容
ある介護職員の１日の業務の例	
その他 WEBサイトで得られる施設の特徴	

介護職員の業務について、理解を深めるために、WEBサイトなどで調べましょう。
また、見学先についてワークの項目以外で得られる特徴などを列挙しておきましょう。

Phase 2　介護業界の現状理解
人口減少における島嶼部の課題理解
ワーク⑤«課題の仮説»

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

課題の仮説と活用されていそうな機器やシステムの収集（30分）

・WEBサイトや生成AIを使い、介護施設で生じる課題の仮説とその課題の解決に寄与する機器やシステムの情報を収集



ワーク⑤は「課題の仮説」です。事前調査をもとに、施設で起きていそうな課題を推定し、その解決に寄与しそうな機器やシステムも合わせて調べます。
ここでは正解を当てることが目的ではありません。見学で検証するための“仮説”を立てることが重要です。課題は「誰が／いつ／どこで／何に困る」で表現し、仮説の根拠も一言添えておきましょう。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク⑤«課題の仮説»

項目	内容
予想される課題①	
活用されていそうな機器・システム	

予想される課題②	
活用されていそうな機器・システム	

ワーク⑤のシート作成では、予想される課題とその課題に対して活用されていそうな機器やシステムについて整理しましょう。現場では、どのような課題があり、どのような対応策が考えられるのかを予め整理しておくことで、企画の提案にも活かすことが出来ます。
次のページも活用し、4つ程度挙げてみましょう。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク⑤«課題の仮説»

項目	内容
予想される課題③	
活用されていそうな機器・システム	

予想される課題④	
活用されていそうな機器・システム	

Phase 2　介護施設の現状理解

施設見学における現状、課題の整理

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇概要

・介護施設見学で **見たこと・聞いたことをグループで共有・整理**する。
・利用者・職員の立場から、**現場の現状や工夫、課題を構造的に整理**する。
・**人口減少・人手不足・島嶼部という条件**が施設運営や業務に**どのような影響**を与えているかを考える。

〇理解目標

・見学内容を **事実ベースで整理・説明**できる
・**介護施設の現状（業務・利用者・職員） を具体的に**捉えられる
・現場で起きている課題を「誰が／いつ／どこで／何に困っているか」 の形で表現できる
・課題の背景にある人口減少・人手不足・島嶼部特有の条件を理解できる

〇時間（合計）

・グループワーク：45分
・発表：15分

〇成果物（アウトプット）

① 見学記録
② 現状の課題整理シート



Phase2後半は、施設見学で見たこと・聞いたことを事実ベースで整理し、現状と課題を構造化します。利用者と職員、それぞれの立場から現場を捉え、人口減少や人手不足、島嶼部条件がどう影響しているかも考えます。理解目標は、見学内容を説明できること、課題を「誰が／いつ／どこで／何に困る」で言語化できること。成果物は見学記録と課題整理シートです。

Phase 2　介護業界の現状理解

人口減少における島嶼部の課題理解

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

①見学記録の作成（15分）

・見学で見たこと・聞いたことなどを共有し、記録として残す
（感想や評価はこの段階では書かない）

②現場の現状および課題整理（30分）

・現場の現状理解

利用者の様子、職員の動き、業務の流れを整理する

・課題の整理

「誰が／いつ／どこで／何に困っているか」を意識して
現場の課題を言語化する



ワーク⑥の流れです。まず見学記録を作成し、見たこと・聞いたことを共有して残します。この段階では感想や評価は入れず、事実として書きます。次に現場の現状理解として、利用者の様子、職員の動き、業務の流れを整理します。その上で課題を言語化します。観察内容を“エピソード”として具体的に書くと、提案の根拠になります。

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

項目	内容
施設名 見学したエリア	
主な説明内容	
人手が足りていないと 感じた点	
使用されていた 機器・システム	
人がやらなくても 良さそうに感じた作業	

ワーク⑥の記録作成では、見学先や見学時に受けた内容、人手が足りていないと感じた点、活用されていた機器、システム、そして人がやらなくても良さそうに感じた作業をまず記入していきます。

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

項目	内容
事前調査との比較	
現場で工夫されて いた点など	

次に、事前調査と比較して、現場がどのような状況であり、自分たちの立てた仮説の検証をおこないます。
また、現場で工夫されていた点も記入してください。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

項目	内容
現場の課題整理	
課題の原因分析	

加えて、現場の担当者から受けた説明のなかや見学時に感じた現場での課題を整理します。
そして、その課題の原因を分析してください。

Phase 3　企画の考案

企画コンセプトシートの作成

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇概要
・施設見学と課題整理で明らかになった現場の課題をもとに、介護施設向けの 企画の方向性（コンセプト） を整理する。
・解決策の詳細設計に入る前段階として「誰の・どんな困りごとを・どう変えたいのか」を明確にする。
・IT・ロボット・AIなどの技術を目的達成の手段として位置づける。

〇理解目標
・課題整理の内容を、企画の目的・方向性に落とし込める
・企画を「対象者／Before／After」 の形で説明できる
・技術ありきではなく、現場の困りごとを起点に企画を考えられる
・次の詳細検討（設計・提案）につながる企画の軸（コンセプト） を言語化できる

〇時間（合計）
・グループワーク：45分
・発表：15分

〇成果物（アウトプット）
① 見学記録
② 現状の課題整理シート

Phase3では、課題整理の結果をもとに企画コンセプトを作ります。
ここでの目的は、解決策の詳細設計に入る前に「誰の・どんな困りごとを・どう変えたいか」を明確にすることです。
技術は目的達成の手段として位置づけ、技術ありきにしないのがポイントです。
理解目標は、対象者やBefore/Afterで企画価値を説明できることです。
成果物は企画コンセプトシートです。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

項目	内容
課題テーマ	
課題の概要	
対象者 （課題を抱えている人）	

ワーク⑦は企画コンセプトシートの作成です。
まず、課題を端的に表現します。
そのうえで課題の概要を記入していきます。
次に、課題を抱えている人、つまり対象者を記入します。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

項目	内容
課題に対する 企画名	
企画の概要	
活用する技術や 手段	

続いて、その課題に対する企画名を決めます。
その下に、企画の概要を記述してください。企画の概要のあとに企画名でも問題ありません。グループで相談しておこなってください。
また、企画において活用する技術や手段を記入してください。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

項目	内容
現在の状況	
企画導入後のイメージ	
企画の導入による現場のメリット	
想定される課題やリスク、制約条件	

3つ目のワークシートです。
ここでは、企画による効果やメリット、リスクを提示します。
まずは、現在の課題がある状況を表現してください。
次に、企画を導入することによってどうなるのかイメージを記入し、現場のメリットも併せて記載してください。
また、企画の導入における課題やリスク、制約条件があれば記入しておきましょう。

Phase 3　企画の考案

企画発表シートの作成

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇概要
・課題整理および企画コンセプトシートの内容をもとに、企画の発表シートを作成する。
・**企画の背景・目的・内容・期待される効果を整理**し、短時間で分かりやすく伝えられる構成にまとめる。
・技術の説明に偏らず、**現場の課題と企画の関係性が伝わる表現を意識**する。

〇理解目標
・**企画の狙いと解決したい課題を簡潔に説明**できる。
・対象者（利用者・職員）の視点から、**Before／After を用いて企画の価値**を示せる。
・IT・ロボット・AIなどの技術を、目的達成の手段として位置づけて説明できる。
・限られたスペースで、要点を整理し、視覚的に表現できる。

〇時間（合計）
・グループワーク：180分
・発表：5〜10分／グループ

〇成果物（アウトプット）
① 企画発表シート（1枚）以下の要素を含む：
・企画タイトル／・背景・課題（簡潔に）／・企画の目的／・対象（誰のための企画か）／
・企画の内容・仕組み（図やイラスト可）／・活用する技術（IT／AI／ロボットなど）／
・期待される効果（Before／After）／・導入・活用の課題、検討事項（簡潔に）

Phase3の次は企画発表シートの作成です。
課題整理とコンセプトをもとに、背景・目的・内容・期待効果を短時間で分かりやすく伝える構成にまとめます。
技術の説明に偏らず、「課題と企画の関係性」が伝わる表現を意識します。
理解目標は、狙いを簡潔に説明し、Before/Afterで価値を示し、技術を手段として位置づけ、しっかりと企画を伝えられることです。

企画のタイトル

グループ名：
メンバー：

ここからは発表シートのテンプレートに沿って、各要素を埋めていきます。まずは上部のタイトル、グループ名、メンバーを記入し、企画の核となる一文を決めます。タイトルは“技術名”ではなく“変化の内容”に寄せると伝わりやすいです。例えば「夜間見守りの不安を減らす」など、課題と効果が想像できる表現を目指しましょう。

背景・課題

「背景・課題」欄は、見学で得た事実を根拠として書きます。主観的に「大変そう」ではなく、具体的に「記録が遅れて情報共有が翌日になる」「移乗介助が集中して腰への負担が大きい」など、観察した場面を短くまとめます。課題は一つに絞ると企画がぶれません。人口減少や人手不足など構造要因が絡む場合は、影響のつながりを一言添えておきます。

企画の概要・活用する技術など

「企画の目的」では、課題をどう変えたいかを端的に述べます。目的は“やること”ではなく“達成したい状態”で書くのがコツです。例えば「申し送りの抜け漏れを減らし、対応の遅れを防ぐ」「移乗介助の負担を下げ、事故リスクを減らす」など。目的が明確になると、必要な機能や運用が決まりやすくなります。目的は1〜2文に絞り、チームで言葉を揃えましょう。
「企画の概要・活用する技術など」では、仕組みを図で説明します。入力→処理→出力の流れ、誰が操作するか、いつ使うかを示しましょう。AIやITを使う場合は、現場の手間が増えない設計が重要です。ロボットの場合は、設置場所、安全性、利用者の受け入れも検討します。技術は目的達成の手段なので、機能を盛り込みすぎず、課題に直結する部分に絞ると伝わります。

期待される効果

「期待される効果」はBefore/Afterで見せます。Beforeは現状の困りごと、Afterは改善後の具体的な変化です。例えば、記録作業が分散できる、申し送りがリアルタイム化する、移乗時の事故が減る、夜間の見守り負担が下がる、利用者の不安が軽くなる、など。可能なら数値化の指標も考えます。
「何がどれくらい良くなるか」が言えると、提案の説得力が一段上がります。

導入・活用の課題と検討事項

最後に「導入・活用の課題と検討事項」です。費用、設置スペース、電源やネット環境、職員研修、運用ルール、個人情報、故障時対応など、現場で詰まりやすい点を先に挙げます。ここを丁寧に書くと「現場で使える提案」になります。課題を出したうえで、対策案も一言添えましょう。例えば段階導入、マニュアル整備、担当者設定など、運用設計まで踏み込みます。
このテンプレートを完成させたら、発表では「課題→目的→仕組み→効果→導入」の順で説明すると伝わりやすいです。技術の説明は短くし、現場課題とどう結びつくかに時間を使いましょう。講評で得た指摘は、企画を磨く重要な材料です。最後に、提案が現場の安全や安心、働きやすさにどう貢献するかを一言でまとめて締めます。

Phase 3　発表
企画発表

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇概要
・課題整理および企画コンセプトシートの内容をもとに作成した企画発表シートの発表を行う。

〇目標
・**グループで考えた企画を簡潔に、そして正確に説明**できる。

〇時間（合計）
・発表：5～10分／グループ

〇成果物（アウトプット）
企画発表シート　以下の要素を含む：
・企画タイトル／・背景・課題（簡潔に）／・企画の目的／・対象（誰のための企画か）／
・企画の内容・仕組み（図やイラスト可）／・活用する技術（IT／AI／ロボットなど）／
・期待される効果（Before／After）／・導入・活用の課題、検討事項（簡潔に）

Phase 3　発表　企画発表
PBL学習を通して考案した企画の発表を行います。
ここでは、グループで考えた企画を簡潔に、そして正確に説明できることが目標です。
各グループで１０分程度で説明してください。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステム
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇概要

・新規開発ではなく、既存のシステムに自動化・AI活用・連携強化等の機能を加えることで現状を改善
・現場の負担軽減と業務効率化を実現する具体的なアイディアを構想することが目的

〇理解目標

・介護現場で使われているシステムを理解する
・現場課題を踏まえた「機能拡張」の視点を持つ
・実現可能な改善提案を考える

〇時間（合計）

・講義：15分
・個人ワーク：15分

〇成果物（アウトプット）：　課題整理シート



Phase４では、機能拡張の考案に入ります。

今回は新規システム開発ではなく、既存システムを前提とした改善設計がテーマです。
今ある仕組みをどう進化させるかを考え、現場に無理なく導入できる提案を目指します。
技術そのものではなく、負担軽減が目的で、実装可能性も必ず検討してください。
現実的な提案ができることが到達目標です。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステム
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇介護施設で活用されている主なシステム



介護施設ではすでに多くのシステムが導入されています。

記録システム、見守りセンサー、ナースコールなど、これらは日常業務の中で活用されています。
しかし、導入されている＝十分活用されている、とは限りません。
使いにくさや連携不足が残っている場合もあり、今回はその「隙間」に注目します。

ゼロから作るのではなく、今あるものを活かします。
既存機能の限界や運用上の課題を洗い出し、どこに改善余地があるのかを探ります。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステム
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇現場でよくある課題



→　**導入しても負担は残っている**

現場では、システムはあっても業務負担が減らない場合があります。

入力作業が多く、時間を取られることがあります。
紙とデジタルの二重入力も代表例で、また、システム間の連携不足も問題です。
データは蓄積されても活用されないこともあり、アラートが多すぎて見逃すこともあります。

機能は存在しても設計が最適とは限りません。
問題は技術不足ではなく設計不足の場合もあります。機能拡張ではこの点を具体的に分析・検討します。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステム
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇機能拡張とは、

既存システムを活かして、**「負担を減らし、できることを増やす」改善アプローチ**



【前】文字入力のみ　【後】文字入力＋音声入力



【前】単体システム　【後】他システムとの連携

機能拡張とは、既存システムを進化させることです。

一部機能を追加したり強化したりすることで、全面的な作り直しではありません。
既存環境を活かすことが前提で、職員が慣れている操作体系を活かしながら、「負担を減らし、できることを増やす」改善アプローチです。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステム
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇なぜ機能拡張なのか

- 新規導入よりコストが低い
- 職員が慣れている環境を活かせる
- 現実的に導入しやすい

観点	新規開発	機能拡張
コスト	高い	比較的低い
導入期間	長い	短い
現場負担	学習必要	慣れを活用
実現可能性	低め	高い

新規開発は理想的に見えるかもしれません。

しかし、コストや教育負担が大きく、現場の混乱も起こりやすくなります。
機能拡張はそのリスクを抑えられ、既存システムを前提に改善できます。

導入期間も短縮でき、段階的に改善できる点も利点です。
現実の施設運営を考えた方法で、理想論ではなく実務的視点が大切です。
実現可能性を常に意識しましょう。

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク⑩«介護施設などで活用されるシステムの機能拡張に関するアイディア考案»
～個人ワーク～

項目	検討概要
現在の状況 （誰が、いつ、どんな）	
背景・課題	
対象のシステム	
拡張する機能	
実装可能性	
費用対効果	

ワーク⑩は、個人作業のパートです。

まず、現状の課題を具体的に整理し、誰がどの場面で困っているかを書きます。
そのうえで、対象システムを一つ選びます。選定に当たっては、理由も明確にし、拡張案や実装可能性を検討します。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステム
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇概要
・既存システムを対象に、現場課題を起点に「今ある仕組みをどう進化させるか」を検討する。
・対象システムを選定し、改善案を発想し、実装可能性や現場適合性を踏まえて具体化する。

〇目標
・既存システムの役割と限界を理解、現場課題を構造的に整理した上で、改善の視点を持つ
・機能拡張の方向性（自動化・AI活用・連携・UI改善など）を説明できる
・実装可能性やリスクを踏まえた現実的な提案をする

〇時間（合計）
・講義：30分
・グループワーク：150分
・発表・講評：60分



〇成果物（アウトプット）
企画発表シート　以下の要素を含む：
・企画タイトル／・背景・課題（簡潔に）／
・企画の目的／・対象（誰のための企画か）／
・企画の内容・仕組み（図やイラスト可）／・活用する技術（IT／AI／ロボットなど）／
・期待される効果（Before／After）／・導入・活用の課題、検討事項（簡潔に）

Phase４は段階的に進めます。

既存システムを対象に、現場課題を起点に「今ある仕組みをどう進化させるか」を検討した上で、対象システムを選定し、改善案を発想し、実装可能性や現場適合性を踏まえて具体化していきます。

課題起点で考えることが前提ですので、技術説明に偏らないよう注意してください。

現場目線を忘れずに、どの機能を拡張するのか、Before／Afterを明確にし、実装可能性まで検討します。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステムの
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇既存システムを選定する基準



→　**実際の「困りごと」から考案する**

対象とするシステムを選定する基準を整理します。

業務負担が大きいか、使用頻度が高いか、改善余地があるか、連携不足がないか、異なる視点から検討します。

感覚ではなく具体例で考え、誰の負担かを明確に、改善点の優先順位を付け、理由を説明できるようにします。
論理的に選定してください。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステム
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇機能拡張を考案する上での大切な視点

① 課題起点で考える（✗「AIを使いたい」、○「〇〇の負担を減らしたい」）
⇒ 誰のどんな負担か
⇒ 現場の課題と一致しているか
⇒ 技術はあくまでも手段

②複雑にしない
⇒ 追加 ≠「画面が増える」
⇒ 操作回数は減っているか
⇒「減らす拡張」の視点も持つ



拡張で大切な視点を６点確認します。

まず、課題起点で考えます。AIを使うことが目的ではなく、負担を減らすことが目的です。
技術はあくまでも手段です。

次に、複雑化させないことも重要です。
機能追加で操作が増えては意味がありません。シンプルにする「拡張」という視点もあります。
操作回数が減るか、迷わないかなどの設計を意識し、現場の使いやすさを最優先します。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステム
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇機能拡張を考案する上での大切な視点

③ 具体的な効果を数値（時間、回数、人数など）で考える
⇒ 何分短縮できるか
⇒ 何人分の業務を削減できるか
⇒ どの時間帯の負担が減るか

④ 既存業務フローに組み込めるか
⇒ 新しい操作を増やしていないか
⇒ 業務導線を崩していないか
⇒ 現場に自然に入る設計になっているか



３つ目は、具体的な効果を数値で考えることです。
何分短縮できるか、どの時間帯の負担が減るか明確にします。
数値化できると説得力が増します。

４つ目は、既存業務フローに組み込めるかです。
新たな負担を増やしていないか現場目線を忘れずに検討することが重要です。
現場の動線を想像し、導入後の動きも考えます。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステム
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇機能拡張を考案する上での大切な視点

⑤ 実装可能性を考慮する
⇒ 導入コストは現実的か
⇒ 既存の通信環境で動くか
⇒ セキュリティーは確保できているか
⇒ 保守・サポートは可能か

④ リスク・デメリットを想定する
⇒ 誤検知の発生リスク
⇒ IT習熟度



続いては、実装可能性を検討します。
導入コストは現実的か確認し、通信環境や設備条件、セキュリティなどを広く考慮し、検討します。

最後は、リスクやデメリットの想定です。
メリットだけではなく、デメリットも想定し、バランスの取れた提案を目指します。

Phase４ 介護施設などで活用されるシステムの
機能拡張に関するアイディア考案

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

〇機能拡張の方向性

①自動化（音声入力・自動集計）
例：音声入力で介護記録を自動作成、バイタルデータを自動集計

② AI活用（異常予測）
例：転倒リスクの予測、体調変化の兆候検知

③システム連携（自動転記）
例：介護記録から請求システムへ自動転記

④UI改善（操作簡素化）
例：ワンタップ入力、色分け表示



機能拡張の方向性にはいくつかあります。

自動化で手間を減らす、AI活用で判断負担を減らす、システム連携で二重入力をなくす、UI改善で操作を簡素化する等が挙げられます。

どの方向が適切か、複数を組み合わせることは可能か、グループで話し合い、課題に最適な方向を選びます。
具体例を意識すると良いでしょう。



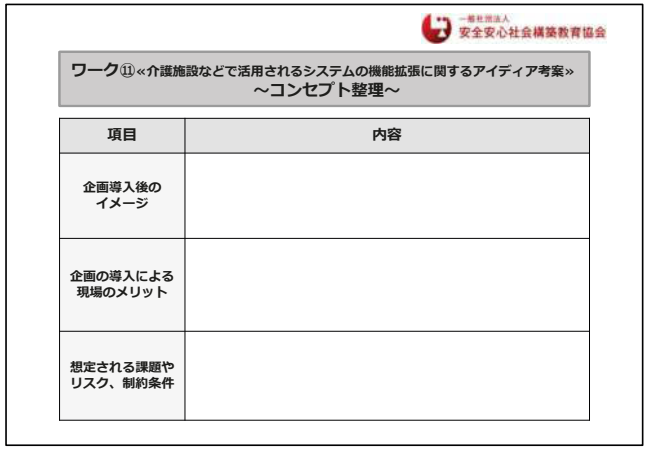
一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑪«介護施設などで活用されるシステムの機能拡張に関するアイディア考案»
～コンセプト整理～

項目	検討概要
現在の状況 （誰が、いつ、どんな）	
背景・課題	
対象システム	
機能拡張の内容	

ワーク⑪は、 コンセプト整理です。

ます、現状を把握し、対象とするシステムを選定します。
どんな作業が減るのか具体化します。抽象的な表現は避け、簡潔にポイントを整理することが重要です。

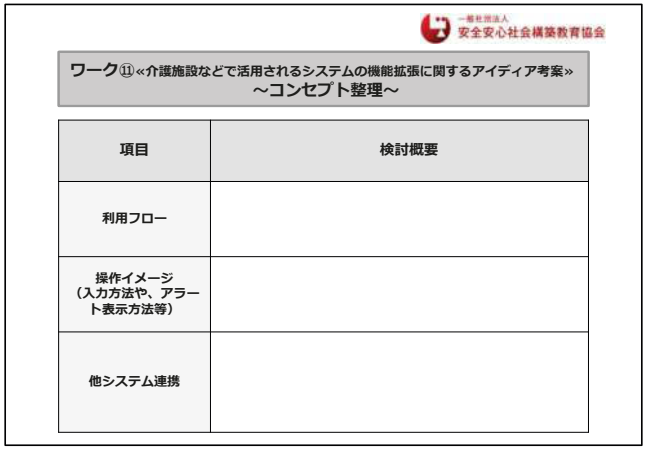


一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑪«介護施設などで活用されるシステムの機能拡張に関するアイディア考案»
～コンセプト整理～

項目	内容
企画導入後の イメージ	
企画の導入による 現場のメリット	
想定される課題や リスク、制約条件	

２つ目のワークシートです。
ここでは、企画を導入することによってどうなるのかイメージを記入し、現場のメリットも併せて記載してください。
また、企画の導入における課題やリスク、制約条件があれば記入しておきましょう。



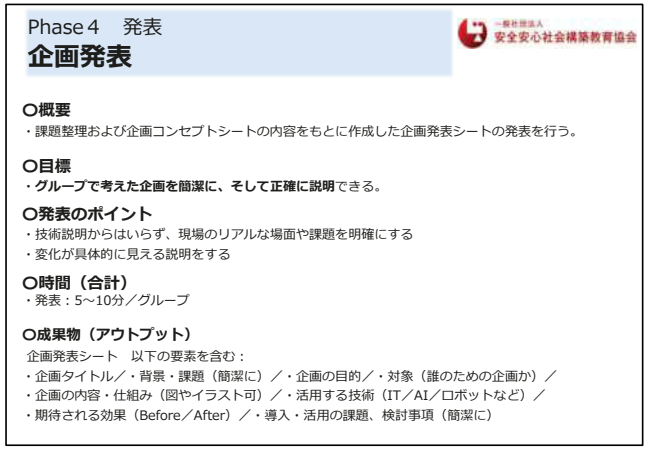
一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

ワーク⑪«介護施設などで活用されるシステムの機能拡張に関するアイディア考案»
～コンセプト整理～

項目	検討概要
利用フロー	
操作イメージ（入力方法や、アラート表示方法等）	
他システム連携	

３つ目のワークシートです。

利用フローを描き、画面イメージも考えます。
現場をイメージして、図やデータで示すと効果的です。



Phase４　発表
企画発表

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

○概要
・課題整理および企画コンセプトシートの内容をもとに作成した企画発表シートの発表を行う。

○目標
・**グループで考えた企画を簡潔に、そして正確に説明**できる。

○発表のポイント
・技術説明からはいらず、現場のリアルな場面や課題を明確にする
・変化が具体的に見える説明をする

○時間（合計）
・発表：5～10分／グループ

○成果物（アウトプット）
企画発表シート　以下の要素を含む：
・企画タイトル／・背景・課題（簡潔に）／・企画の目的／・対象（誰のための企画か）／
・企画の内容・仕組み（図やイラスト可）／・活用する技術（IT／AI／ロボットなど）／
・期待される効果（Before／After）／・導入・活用の課題、検討事項（簡潔に）

PBL学習を通して考案した拡張機能の企画発表を行います。
ここでは、グループで考えた企画を簡潔に、そして正確に説明できることが目標です。
各グループで１０分程度で説明してください。

拡張内容を簡潔に示し、Before／Afterの違いを明確に提示できるとよいでしょう。



介護施設における
ロボット・IT/AI活用
ＰＢＬ

指導ガイド

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

指導ガイド　学習要項

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

01　学習目標

1. 島嶼部における人口減少と地域課題を構造的に理解できる
2. 介護現場の業務・役割・課題を具体的に説明できる
3. 現場課題を「誰が／いつ／どこで／何に困る」で整理できる
4. IT・ロボット・AIを目的ではなく手段として活用できる
5. 導入・運用・実装可能性まで含めた現実的提案ができる

02 PBLテーマ

1. 介護施設におけるロボット・IT・AI活用による
2. 現場課題解決および既存システムの機能拡張提案

03 演習時間

合計22.5時間

指導ガイド　学習構成

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

	Phase1	Phase2	Phase3	Phase4
テーマ	介護業界・地域の理解	介護現場の理解	企画考案	機能拡張の考案
時間	6時間	6時間	6時間	4.5時間
実施内容	■ 介護業界の現状 ■ 人口減少のデータ分析 ■ 課題抽出 ■ 優先順位付け	■ 介護業界の構造理解 ■ 課題整理 ■ 施設見学の事前調査 ■ 施設見学	■ コンセプトシート作成 ■ 発表 ■ コンセプト設計 ■ 企画発	■ 既存システムの分析 ■ 企画拡張アイディアの考案 ■ 実装可能性の検討 ■ 発表

Phase1 オリエンテーション

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

01 ステップ

島嶼部における人口減少と地域課題の理解



02 学習のねらい

1. 奄美大島の人口減少の実態を理解する
2. 地域課題を構造的に捉える力を育成する

03 到達目標

【知識】人口減少と負のスパイラルを説明できる
【思考】課題を「誰が／いつ／どこで／何に困る」で整理できる
【態度】地域課題を自分事として考える姿勢を持つ

Phase1 オリエンテーション

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

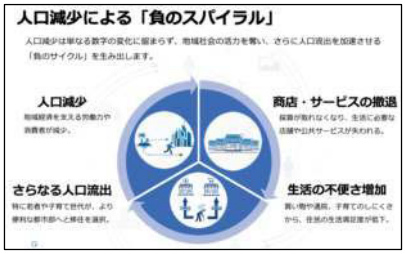
04 指導項目

1. 人口推移データの読み取り
2. 負のスパイラルの理解
3. 課題の具体化
4. 優先順位の検討



05 指導ポイント

1. 数値を生活の変化に結び付けて考えさせる
2. 抽象表現で終わらせない
3. 主語を明確にさせる
4. AIは「補助ツール」であると強調する



Phase1 オリエンテーション

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

06 評価の観点

1. 課題の具体性
2. 構造理解の深さ
3. グループ内での主体的発言
4. 優先順位付けの妥当性



07 ワークシート・成果物の指導

1. 課題は最低3つ以上挙げさせる
2. 「困る主体」を明確にさせる
3. 感想ではなく事実・根拠を記述させる
4. 1課題につき、1～2行で簡潔にまとめさせる



Phase2 介護業界の理解

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

01 ステップ

介護業界・施設の現状理解

02 学習のねらい

1. 介護業界の仕組みを理解する
2. 現場業務を具体的に把握する



03 到達目標

【知識】施設種別・職種を説明できる
【思考】業務フローを整理できる
【態度】現場を尊重する視点を持つ

Phase2 介護業界の理解

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

04 指導項目

1. 介護施設の種類
2. 職種と役割
3. 業務内容
4. 人手不足の影響



05 指導ポイント

1. 業務単位で具体化させる
2. 見学前に仮説を立てさせる
3. 事実と感想を分けさせる
4.「大変そう」で終わらせない

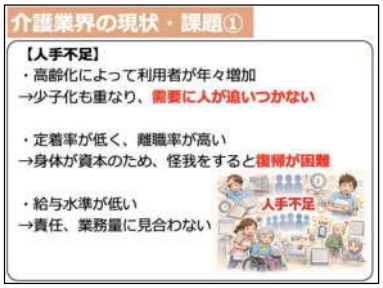


Phase2 介護業界の理解

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

06 評価の観点

1. 課題構造の理解の深さ
2. 仮説の妥当性
3. 現場理解の深さ
4. 見学記録の具体性



07 ワークシート・成果物の指導

1. 「誰が／いつ／どこで／何に困る」を必須とする
2. 主語を明確に記述させる
3. 推測と事実を分ける
4. 箇条書きで整理させる



Phase3 企画考案

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

01 ステップ

企画コンセプト設計

02 学習のねらい

1. 課題から解決策への理論構築
2. 技術を手段として位置づける思考



03 到達目標

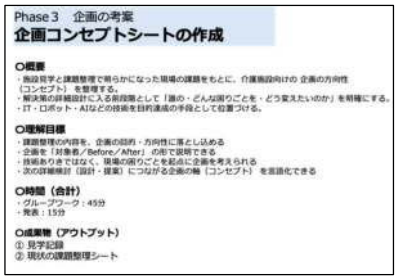
【知識】企画構築要素を理解する
【思考】Before/Afterで説明できる
【態度】課題起点思考を維持する

Phase3 企画考案

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

04 指導項目

1. コンセプト整理
2. 対象者の明確化
3. 目的設定
4. 期待効果の整理


Phase３　企画の考案
企画コンセプトシートの作成
○概要
・施設見学と課題整理で明らかになった現場の課題をもとに、介護施設向けの 企画の方向性（コンセプト） を整理する。
・解決策の詳細設計に入る前段階として「誰の・どんな困りごとを・どう変えたいのか」を明確にする。
・IT・ロボット・AIなどの技術を目的達成の手段として位置づける。
○理解目標
・課題整理の内容を、企画の目的・方向性に落とし込める
・企画を「対象者／Before／After」の形で説明できる
・技術ありきではなく、現場の困りごとを起点に企画を考えられる
・次の詳細検討（設計・提案）につながる企画の軸（コンセプト）を言語化できる
○時間（合計）
・グループワーク：45分
・発表：15分
○成果物（アウトプット）
① 見学記録
② 現状の課題整理シート

05 指導ポイント

1. 技術から入らせない
2. 必ず課題から説明させる
3. Before/Afterを明確にさせる
4. 図解を活用させる


ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

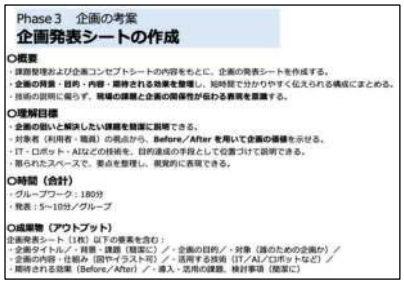
項目	内容
課題テーマ	
課題の概要	
対象者（課題を抱えている人）	

Phase3 企画考案

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

06 評価の観点

1. 課題と提案の整合性
2. 実行可能性
3. 理論の一貫性
4. 発表の構成力


Phase３　企画の考案
企画発表シートの作成
○概要
・課題整理および企画コンセプトシートの内容をもとに、企画の発表シートを作成する。
・企画の背景・目的・内容・期待される効果を整理し、短時間で分かりやすく伝えられる構成にまとめる。
・技術の説明に偏らず、現場の課題と企画の関係性が伝わる表現を意識する。
○理解目標
・企画の狙いと解決したい課題を論理的に説明できる。
・対象者（利用者・職員）の視点から、Before／After を用いて企画の価値を示せる。
・IT・ロボット・AIなどの技術を、目的達成の手段として位置づけて説明できる。
・限られたスペースで、要点を整理し、視覚的に表現できる。
○時間（合計）
・グループワーク：180分
・発表：5~10分／グループ
○成果物（アウトプット）
企画発表シート（1枚）以下の要素を含む：
・企画タイトル／・背景・課題（整理に）／・企画の目的／・対象（誰のための企画か）／
・企画の内容・仕組み（図やイラスト可）／・活用する技術（IT／AI／ロボットなど）／
・期待される効果（Before／After）／・導入・活用の課題、検討事項（簡潔に）

07 ワークシート・成果物の指導

1. タイトルは具体的に
2. 目的は1文で簡潔に
3. Before/Afterを明確に記載
4. 図や簡易スキームを入れさせる


企画のタイトル

グループ名：
メンバー：

Phase4 機能拡張の考案

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

01 ステップ

既存システムの機能拡張設計



02 学習のねらい

1. 現実的改善思考の育成
2. 実装可能性を踏まえた設計力向上

03 到達目標

【知識】既存のシステムの役割理解
【思考】拡張の方向性を説明できる
【態度】現場適合性を重視する姿勢

Phase4 機能拡張の考案

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

04 指導項目

1. 機能拡張の定義
2. 拡張の方向性（自動化/AI/連携/UI改善）
3. 実装可能性
4. リスク想定



05 指導ポイント

1. 新規開発は禁止
2. 効果を数値で示させる
3. 操作回数が増えていないか確認
4. コスト・保守の視点をもたせる

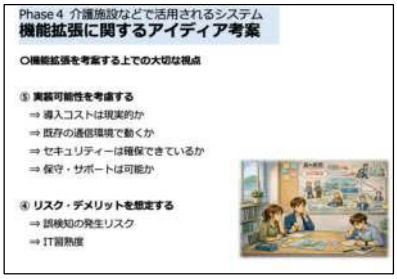


Phase4 機能拡張の考案

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

06 評価の観点

1. 現実性
2. 具体性
3. 業務フロートの整合性
4. 費用対効果の説明力



07 ワークシート・成果物の指導

1. 対象システムを明確にする
2. 改善前後を図示させる
3. リスクや課題も記載させる
4. 「現場に自然に導入できるか」確認する



一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク①«奄美大島が抱える課題整理»
～個人ワーク(課題の収集)～

分野	課題概要
介護	高齢化率が高く、介護施設での人手不足が深刻化している。特に夜勤や移乗介助の負担が大きい。
医療	専門医や高度医療機関が少なく、重症患者は島外搬送が必要になり時間と費用がかかる。
交通	高齢者が免許返納後に利用できる公共交通が少なく、通院や買い物が困難になる。
買い物	過疎地域では商店の閉店が進み、日用品や食料品を購入できる場所が限られている。
人材・産業	若者の島外流出が続き、地域産業や福祉分野の担い手が不足している。

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク①«奄美大島が抱える課題整理»
～グループワーク(課題の深掘り)～

項目	内容
課題の概要	介護施設における人手不足と業務負担の増大
選んだ理由	人口減少が続く中で、介護人材の確保は今後さらに困難になると予想される。現在の働き方のままでは、職員の負担が限界に達し、施設運営そのものが維持できなくなる可能性がある。早期に業務効率化や負担軽減策を検討することが必要である。
具体的な例	移乗介助・見守り・排せつ介助が重なり業務が回らない。記録業務に時間がかかり、利用者と向き合う時間が減少する。
課題の影響	①職員の疲労蓄積・腰痛の増加、②離職率の上昇→さらに人手不足が加速 ③利用者とのコミュニケーション時間の減少、④事故・ヒヤリハットのリスク増大 ⑤サービスの質の低下
原因	①奄美大島は高齢化率が高く、利用者数が増加しているが、若者の島外流出により介護人材の確保が困難。 ②身体的負担が大きく、離職率が高い。 ③介護記録や情報共有がアナログ中心で時間がかかる。
現時点での対応策と限界	現在の対応策としては、外国人労働者の受け入れや処遇改善、業務分担の見直し、介護記録のデジタル化や移乗支援ロボットの導入などが進められている。 しかし、島嶼部という立地条件から人材確保には限界があり、導入したIT機器も十分に活用できていない。

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク②«介護業界の課題整理»

項目	内容
介護業界の現状	①高齢化が急速に進み、要介護認定者数は年々増加している。 ②特別養護老人ホームや在宅サービスの需要が高まる一方で、介護職員の数は十分とは言えない。 ③24時間体制での支援が必要な施設も多く、身体的・精神的負担が大きい。 ④ICTや介護ロボットの導入も進んでいるが、施設間で活用状況に差がある。
主な課題	①慢性的な人手不足、離職率の高さ ②職員の身体的・精神的負担の大きさ ③給与水準と業務量の不均衡 ④外国人労働者の受け入れと育成の課題 ⑤ICT・ロボット活用の遅れや活用不足
課題の原因	①労働人口の減少 ②介護職の社会的評価や給与水準が十分でないこと ③重労働や夜勤を含む勤務形態 ④業務が「人の手」に依存している構造 ⑤ICT導入後の運用体制
課題の影響	①職員一人あたりの業務負担が増大する ②離職率が上昇し、さらに人手不足が深刻化する ③利用者とのコミュニケーション時間が減少する ④サービスの質や安全性に影響が出る可能性がある ⑤将来的に施設運営の継続が困難になる恐れがある

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク③«奄美大島における介護業界の課題整理»

項目	内容
奄美大島の地域特性	①奄美大島は人口減少が進んでおり、全国平均よりも高齢化率が高い。 ②若者の進学・就職による島外流出が続き、労働人口が減少している。 ③島嶼部であるため、交通や医療機関の選択肢が限られている。 ④台風などの自然災害リスクも高く、災害対応体制が重要である。
地域特有の介護課題	①介護人材の確保が都市部よりも困難。 ②医療機関が限られており、緊急時の対応に制約がある。 ③島内での転職先が少なく、離職すると人材が流出しやすい。 ④家族が島外に住んでいるケースが多く、施設依存度が高い。 ⑤機器導入時のメンテナンスやサポートに時間がかかる可能性がある。
全国課題との比較	①全国的にも人手不足や業務負担は課題であるが、奄美大島では「人材確保の難しさ」がより深刻。 ②都市部では転職や採用の選択肢が比較的多いが、島嶼部では人材の絶対数が少ない。 ③医療連携や機器保守の面でも地理的制約が大きい

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク④«見学する施設の事前調査»

項目	内容
施設名	奄美佳南園
施設の種類	特別養護老人ホーム（特養）
利用者の特徴	社会福祉法人 聖隷福祉事業団
職員の職種構成	鹿児島県奄美市
提供している主なサービス内容	特別養護老人ホーム（入所）、ショートステイ、デイサービスなど

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク④«見学する施設の事前調査»

項目	内容
ある介護職員の１日の業務の例	【7:00～9:30】 出勤後に夜勤者からの申し送りを受け、利用者の体調確認、起床・排せつ介助、朝食介助や服薬確認を行う。 【9:30～10:30】 居室の環境整備やシーツ交換を行いながら、介護記録の入力や水分摂取状況を確認する。 【10:30～12:00】入浴介助や移乗介助を行い、利用者の安全確保と体調観察を実施する。 【12:00～13:00】昼食介助と服薬確認を行い、食事量や体調を観察する。 【13:00～14:00】交代で休憩を取りながら、記録の整理や情報共有を行う。 【14:00～16:00】レクリエーションや体操を実施し、排せつ介助や水分補給の支援を行う。 【16:00～17:00】1日の記録をまとめ、夜勤職員への申し送りを行い業務を引き継ぐ。
その他WEBサイトで得られる施設の特徴	①要介護3以上の高齢者を対象とした入所施設で、常時介護が必要な方をケアする。 ②ユニット型・従来型などの居室形態があり、少人数単位でのケア体制を採用している場合が多い。 ③24時間体制で介護職員が配置されているいる。 ④医療機関との連携体制があり、健康管理や緊急時対応を行う。 ⑤介護士、看護師、生活相談員、ケアマネジャーなどの多職種が協働する。 ⑥レクリエーションや季節行事を実施し、生活の質（QOL）向上を重視している。 ⑦地域交流やボランティア受け入れを行う施設が多い。 ⑧ショートステイを併設している場合が多い。 ⑨介護ロボットやICTの導入を進めている施設もある。

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑤«課題の仮説»

項目	内容
予想される課題①	少人数体制で多数の利用者を見守る必要があり、転倒や急変のリスク管理が大きな負担になっている可能性がある。 巡回回数が多く、職員の身体的・精神的疲労につながっていると考えられる。
活用されていそうな機器・システム	守りセンサー、離床センサー、AIカメラ、ナースコール連動システム

予想される課題②	要介護度が高い利用者が多いため、移乗や入浴介助が日常的に発生している。 腰痛などの職業病リスクが高く、離職の一因になっている可能性がある。
活用されていそうな機器・システム	移乗支援ロボット（Hugなど）、パワーアシストスーツ、リフト機器

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑤«課題の仮説»

項目	内容
予想される課題③	食事量、排せつ状況、バイタルなどの記録が頻繁に発生している。 入力や申し送りに時間を要し、利用者と向き合う時間が減少している可能性がある。
活用されていそうな機器・システム	音声入力AI、クラウド型介護記録システム、タブレット端末

予想される課題④	奄美大島は若者の島外流出が続いており、人材確保が都市部より困難である可能性が高い。 人員不足が慢性化すると、1人当たりの業務負担が増大する。
活用されていそうな機器・システム	業務効率化システム、遠隔会議システム、外国人支援の翻訳ツール

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

項目	内容
施設名 見学したエリア	奄美佳南園（特別養護老人ホーム）
主な説明内容	①夜間は少人数体制で見守りを行っている。 ②移乗介助や入浴介助は身体的負担が大きい。 ③朝・昼の時間帯は介助業務が集中する。
人手が足りていないと感じた点	①複数業務を同時進行で行っている。 ②記録・申し送り・介助が重なっている。 ③忙しい時間帯は会話の余裕が少ない。
使用されていた 機器・システム	介護記録システム（タブレット端末）、移乗支援機器、介護保険請求システム
人がやらなくても 良さそうに感じた作業	① 介護記録の入力作業 ② バイタル測定の記録転記夜間の定時巡回 ③物品在庫確認・発注管理 ④シフト調整・勤怠管理

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

項目	内容
事前調査との比較	①人手不足が深刻で、常に業務が逼迫していると想定していたが、ユニットケアにより役割分担が工夫されていた。 ②夜勤は非常に過酷で余裕がないと考えていたが、少人数体制ではあるが、見守り機器や巡回ルールが整備されていた。 ③ICTはあまり活用されていない可能性があると思っていたが、タブレット記録システムが導入されており、一定のICT活用が進んでいた。
現場で工夫されていた点など	①少人数制で利用者を担当することで、利用者の状態変化に気づきやすい体制が取られていた。 ②タブレット記録を活用し、申し送り時間を短縮しており、口頭だけでなくデータで共有する仕組みがあった。 ③無理な持ち上げ介助を避けるルールが徹底されていた。

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

項目	内容
現場の課題整理	①業務が特定時間帯に集中している。 ・朝食前後、昼食前後、入浴時間帯に業務が重なる。 ・複数利用者の介助が同時進行になる。 ②夜勤時の見守り負担が大きい。 ③記録業務が利用者対応時間を圧迫している。 ・タブレット入力に一定時間が必要。 ・申し送り準備に時間を要する。
課題の原因分析	①要介護度が高い利用者が多い。 ②業務が「人の手」に依存している。 ③業務フローの再設計が十分でない。 ④人材募集や処遇改善、ICT導入などの対策は行われているが、島嶼部という条件の中で人材確保には限界がある。

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

項目	内容
課題テーマ	①介護施設における人手不足下での業務負担増大 ②利用者対応時間の不足
課題の概要	①奄美佳南園では、朝夕の介助集中時間や夜間の少人数体制により、職員一人あたりの業務負担が大きい状況が見られた。 ②特に、移乗・排せつ・入浴介助に加え、記録業務や申し送り準備が重なり、利用者と十分に向き合う時間が確保しにくい。 ③島嶼部という立地条件から人材確保も難しく、今後さらに負担が増大する可能性がある。
対象者 （課題を抱えている人）	特別養護老人ホームで勤務する介護職員（特に日勤・夜勤担当者）

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

項目	内容
課題に対する企画名	見守り×音声記録DXによる“ゆとり創出プロジェクト”
企画の概要	①朝夕の業務集中や夜間の見守り負担、記録業務に多くの時間が割かれている現状の改善。 ②人手不足が慢性化する中、増大している職員の身体的・精神的負担の軽減。 ③利用者と向き合う時間の確保。
活用する技術や手段	① 見守りセンサーの活用強化 ⇒ 離床センサーとスマートフォン連携 ② 音声入力AIによる記録自動化 ③クラウド型介護記録システム ④データ分析ツール

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

項目	内容
現在の状況	①朝夕や入浴時間帯に業務が集中し、職員が多忙である。 ②夜間は少人数体制で見守りを行っており、精神的負担が大きい。 ③介護記録はタブレット入力だが、入力時間の確保が難しく、利用者対応時間を圧迫している。
企画導入後のイメージ	①見守りセンサーにより、必要時のみの対応が可能になり、巡回の効率化が進む。 ②音声入力AIにより、介助しながら記録が完了する。 ③記録時間が短縮され、利用者との会話やケアに充てる時間が増える。 ④少人数体制でも安全性を確保できる仕組みが整う。
企画の導入による現場のメリット	①職員の身体的・精神的負担の軽減 ②記録時間の削減による業務効率化 ③転倒や急変への迅速な対応 ④離職率の低下につながる可能性が高い ⑤利用者との関係性向上（ケアの質向上）
想定される課題やリスク、制約条件	①導入コストが高い ②職員がIT操作に慣れるまで時間が必要 ③センサー誤作動の可能性 ④通信環境が不安定な場合の影響 ⑤個人情報管理・データセキュリティ対策が必要

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑩«介護施設などで活用されるシステムの機能拡張に関するアイディア考案»
～個人ワーク～

項目	検討概要
現在の状況 **（誰が、いつ、どんな）**	介護職員が、朝夕の介助集中時間帯に、食事・排せつ・移乗介助を行いながら、タブレットで介護記録を手入力している。介助後にまとめて入力するため、記録時間が長くなっている。
背景・課題	人手不足により、職員一人あたりの業務量が増加している。 記録業務は必須だが、利用者と向き合う時間を圧迫している。また、記録データが請求システムと十分連携しておらず、一部で二重入力が発生している。
対象のシステム	既存の介護記録システム（タブレット入力型） および介護保険請求システム
拡張する機能	音声入力による記録自動作成機能 記録内容の自動分類・自動集計 請求システムへの自動転記機能 業務集中時間の可視化機能
実装可能性	既存システムのアップデートとして機能追加するため、全面的なシステム入れ替えは不要である。 音声認識技術はすでに実用化されている。 通信環境が安定していれば導入は可能と考えられる。
費用対効果	既存システムのアップデートとして機能追加するため、システム入替えは不要。 音声認識技術はすでに実用化されている。 通信環境が安定していれば導入は可能と考えられる。

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑪«介護施設などで活用されるシステムの機能拡張に関するアイディア考案»
～コンセプト整理～

項目	検討概要
現在の状況 **（誰が、いつ、どんな）**	①日勤の介護職員が、朝の07:30-09:00の介助集中時間帯に、食事介助・排せつ介助・移乗介助を行いながら、各利用者ごとの記録をタブレットへ手入力している。 ②介助後にまとめて入力するため、1日あたり約40～60分を記録業務に費やしている。
背景・課題	①慢性的な人手不足により、職員1人あたりの担当利用者数が多い。記録業務は法的に必要であり削減できない。 ②記録内容の一部は請求システムへ再入力が必要であり、業務の重複と時間ロスが発生している。 ③データは蓄積されているが、業務改善に活用されていない。
対象システム	既存の介護記録システム（タブレット入力型）および介護保険請求システム ※両システムは現在、部分的にしか連携していない。
機能拡張の内容	①介助中の音声入力機能を追加し、自動で記録文章を生成 ②入力データを自動分類し、請求対象項目へ自動転記 ③時間帯別業務量を可視化するヒートマップ表示 ④入力テンプレートを簡素化し、ワンタップ選択方式を導入 ⇒　記録時間を1日あたり30分削減することを目標

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑪«介護施設などで活用されるシステムの機能拡張に関するアイディア考案»
～コンセプト整理～

項目	内容
企画導入後のイメージ	①介護職員は介助を行いながら、音声で簡潔に記録を入力できる。 ②入力内容は自動で文章化され、記録システムに反映される。 ③必要項目は請求システムへ自動転記される。 ④朝夕の業務集中時間帯でも、記録のために立ち止まる時間が減少する。 ⑤1日あたり約30分の記録時間削減を目指す。 ⑥業務集中時間はヒートマップで可視化され、シフト改善に活用される。
企画の導入による現場のメリット	①記録時間の短縮により、利用者との会話時間が増加する。 ②二重入力が減少し、業務効率が向上する。 ③判断や転記ミスの減少につながる。 ④業務量の可視化により、配置や役割分担の改善が可能になる。 ⑤職員の精神的負担の軽減と離職防止に寄与する可能性がある。
想定される課題やリスク、制約条件	①音声認識の誤認識や誤入力のリスク。 ②導入初期の操作習熟期間が必要。 ③システム連携のための改修コストが発生する。 ④通信環境が不安定な場合、機能が十分に活用できない可能性。 ⑤個人情報管理やセキュリティ対策の強化が必要。

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑪«介護施設などで活用されるシステムの機能拡張に関するアイディア考案»
～コンセプト整理～

項目	検討概要
利用フロー	介護職員が介助を実施（例：食事介助） ⇒介助終了後、その場でタブレットに向かって音声入力 ⇒音声データが自動で文章化され、記録画面に表示 ⇒職員が内容を確認し、ワンタップで保存 ⇒保存データが自動で分類され、請求対象項目へ反映 ⇒データはリアルタイムで共有され、申し送りにも活用 ＊介助から記録完了までをその場で完結させる設計
操作イメージ（入力方法や、アラート表示方法等）	①記録画面に「音声入力ボタン」を設置 ②ボタンを押して発話すると自動テキスト化 ③よく使う記録内容はワンタップ選択方式 ④異常値（例：体温38℃以上）は自動で赤色表示 ⑤リスク通知はポップアップ＋軽い振動通知 ⑥確認画面を経て保存する二段階設計 ＊操作回数を減らし、視認性を高める
他システム連携	①介護記録システム→介護保険請求システムへ自動転記 ②見守りセンサーの離床データを記録画面へ自動反映 ③バイタル測定機器からデータを自動取得 ④業務時間データを勤怠管理システムへ共有 ⑤データはクラウド上で一元管理 ＊二重入力を削減し、データ活用を可能にする



介護施設における
ロボット・IT/AI活用
ＰＢＬ

実証講座用

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

PBL学習とは

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

PBLは「**Problem-Based Learning（課題解決型学習）**」の略。
具体的な課題を解決するプロセスを通じて、知識やスキルを習得する教育手法です。



1

学生中心の学び

教師からの一方的な知識伝達ではなく、学生自ら課題に取り組むことで深い学びを促す。

2

現実の課題に対する取組み

机上の空論ではなく、実際の社会や現場で発生している問題に直面し、解決策を考案する。

3

協　働

多様な意見を持つメンバーと協力し、コミュニケーションを取りながら課題解決を目指す。

4

実践的な問題解決能力の向上

知識の応用、分析力、批判的思考力、意思決定能力、問題解決能力など複合的なスキルを育成する。


一般社団法人
安全安心社会構築教育協会
本学習のゴール
01
現場の課題を理解し、言語化できる
具体的な困りごとを観察し、理解したうえで的確に表現する力を身につける。
02
別領域の課題解決に対する協働性を磨く
ITとは別領域の現場における課題解決について、当該領域の当事者(経験者)などと協働することにより、コンピテンシーを高める。
03
導入・運用まで含めた提案にできる
現場で実際に使える提案を、導入から運用まで具体的に設計する。
このPBLでは、技術を作るのではなく、
現場課題に合う提案を作ることを目指します。


一般社団法人
安全安心社会構築教育協会
学習全体の流れ
Phase 1
オリエンテーション
PBLの目的と
進め方の理解
Phase 2
介護の現状
課題の整理
介護現場の具体的な
課題を把握
Phase 3
企画の提案
課題の解決策となる
企画の考案
Phase 4
発表・講評
NEW!!
企画の発表と講評

学習スケジュール①

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

	項目	実施内容
①	オリエンテーション	・講師紹介、PBLおよび本講座のテーマ説明 ・グループワークアイスブレイク ・人口減少における島嶼部の課題概要講義 ・ワーク①«奄美大島が抱える課題整理» ・各グループ発表
②	介護業界の現状理解	・介護業界の現状・課題に関する講義 ・ワーク②«介護業界の課題整理» ・ワーク③«奄美大島における介護業界の課題整理» ・発表
③	介護施設の現状理解	・見学する施設の紹介（2か所） ・ワーク④見学する施設の事前調査 ・ワーク⑤課題の仮説 ・発表 ・まとめ（見学事前確認、アンケート）
④ ⑤	介護施設の理解	・施設見学【移動など含め２時間程度】 ・ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理» ・発表
⑥	企画の考案	・ワーク⑦«企画のコンセプトシート作成» ・発表【15分】 ・まとめ【15分】（今後の流れ確認、アンケート

学習スケジュール②

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

	項目	実施内容
⑦ ⑧ ⑨	企画の考案	・ワーク⑧«企画発表シートの作成» ・中間発表・講評（講師＋学生同士） ・発表シートの改善方針策定、作成
⑩ ⑪	企画の考案	・ワーク⑨«企画発表シートの完成»
⑫	発表・講評	・グループ発表＋講評 ・まとめ（総括）

アイスブレイク

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

テーマ：奄美大島に新しいテーマパークをつくる！！！

【進め方】
① 項目ごとにアイディア出し
以下の各項目について、**全員が１人１案ずつ**出してください。**重複は無し！**
•メインターゲット
•場所
•「奄美大島といえば〇〇」
•メインアトラクション

② グループで選択・組み合わせ
出そろった案の中から、**各項目につき1つずつ選び**、
グループの**「遊園地案」**を完成させてください。

③ グループ案を発表（30秒～1分）

【ルール】
•否定・評価なし
•1人1案・全員発言
•発想を楽しむことを重視



Phase１　オリエンテーション
人口減少における島嶼部の課題理解

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

〇概要
•日本全体と島嶼部の人口減少の違いを確認し、奄美大島の現状を踏まえて**人口減少が地域の暮らし、医療・産業に与える影響**を整理する。
•グループで**奄美大島が抱える課題を具体化・優先順位付け**する

〇理解目標
•地元である**奄美大島の人口減少による課題**を理解する。
•人口減少による「負のスパイラル」を理解する。
•課題を **「誰が／いつ／どこで／何に困る」** で具体化できる



〇時間（合計）
•講義：15～20分
•グループワーク：20～30分
•共有：5分（任意）

〇成果物（アウトプット）：　課題整理シート

島嶼部の人口減少（奄美市の現状）

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

日本全体で人口減少が進行するなか、奄美市の現状を把握しましょう。

奄美市の減少率（8.2%）は全国平均（2.6%）の **約3.15倍**。

	年	日本全体	奄美市
人口の推移	2015年	1億2,709万人	43,195人
	2020年	1億2,614万人	41,390人
	2025年	1億2,380万人	39,636人
10年間の減少数	2015-2025	▲329万人	▲3,559人
10年間の減少率	2015-2025	約2.6%減	約8.2%減

島嶼部の人口減少（奄美市の現状）

一般社団法人 安全安心社会構築教育協会

年齢区分	1960 (S35)	1970 (S45)	1980 (S55)	1990 (H2)	2000 (H12)	2010 (H22)	2020 (R2)
0~14	38.8%	31.4%	27.2%	26.3%	18.2%	15.2%	13.8%
15~64	54.3%	59.9%	62.2%	61.3%	60.7%	59.0%	53.7%
65~	7.0%	8.6%	10.6%	12.4%	21.1%	25.8%	32.5%

【１５～４９歳男女別人口の推移】



1960年～2020年

０～14歳：約３分の1

６５歳以上：約４.５倍

１５歳～４９歳

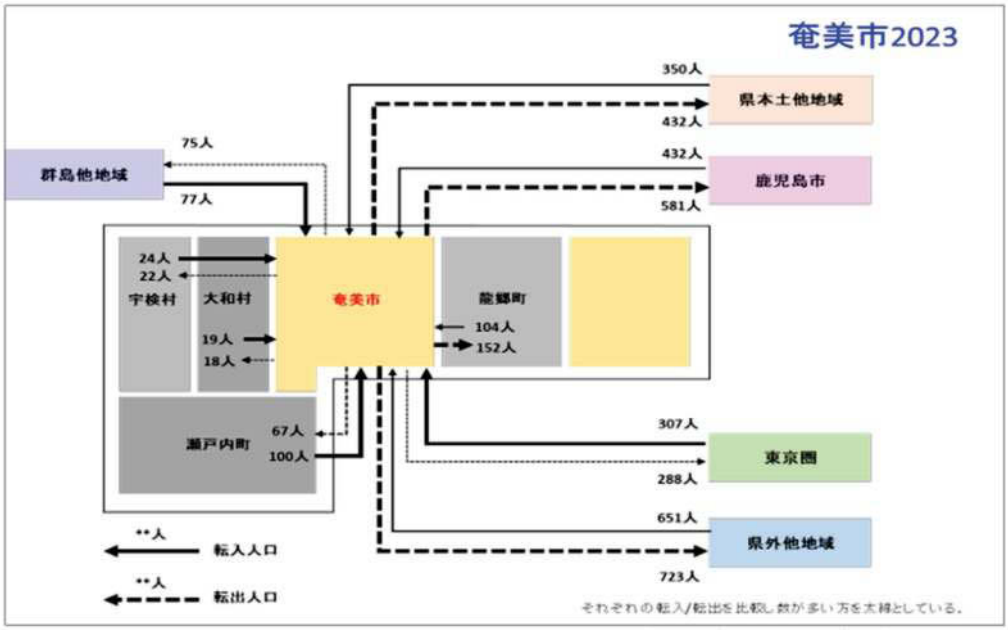
３０年間で約２分の１

（2025年末日 12,644人）

出典：奄美大島人口ビジョン2025

島嶼部の人口減少（奄美市の現状）

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会



出典：奄美大島人口ビジョン2025

人口減少による「負のスパイラル」

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

人口減少は単なる数字の変化に留まらず、地域社会の活力を奪い、さらに人口流出を加速させる「負のサイクル」を生み出します。

人口減少

地域経済を支える労働力や消費者が減少。

商店・サービスの撤退

採算が取れなくなり、生活に必要な店舗や公共サービスが失われる。

さらなる人口流出

特に若者や子育て世代が、より便利な都市部へと移住を選択。

生活の不便さ増加

買い物や通院、子育てのしにくさから、住民の生活満足度が低下。

Phase１　オリエンテーション

人口減少における島嶼部の課題理解

ワーク①«奄美大島が抱える課題整理»

① 個人ワーク｜生成AIで課題を収集（５分）

- 生成AIを使い、奄美大島が抱える課題を複数収集
- 分野は自由（医療・介護、交通、買い物、行政、教育、産業、防災など）
- 各課題について **概要を1～2行** で整理する

▶ アウトプット：**課題候補（3～5個）**

② グループ内共有｜テーマ選定（１０分）

- 個人で集めた課題をグループ内で共有
- 重複や共通点を整理し、課題候補を一覧化
- 影響の大きさ・重要性・関心度をもとに **テーマを選定**

▶ アウトプット：**グループで選んだ課題テーマ（1つ）**

③ グループワーク｜課題の深掘り（15分）

- 課題を次の型で整理
- **誰が／いつ／どこで／何に困るか**
- 影響・原因・関係者を整理し、課題の構造を明確化



一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク①«奄美大島が抱える課題整理»
～個人ワーク(課題の収集)～

分野	課題概要

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク①«奄美大島が抱える課題整理»
～グループワーク(課題の深掘り)～

項目	内容
課題の概要	
選んだ理由	
具体的な例	
課題の影響	
原因	
現時点での対応策と限界	

Phase2　介護の現状課題の整理

介護業界の現状理解

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

○概要

•介護業界の基礎的な知識として、介護サービスの種類、介護施設の役割、介護士の仕事の全体像を学ぶ
•介護士の業務や、利用者を支えるために行われている多様な業務・判断・配慮を具体的に理解する

○理解目標

•介護業界の基本的な仕組み（施設の種類、サービス内容、対象者）を説明できる

•介護士の主な業務内容を理解できる

•介護士の仕事が、人との関わり・安全配慮・判断の連続で成り立っていることを理解できる

•人手不足や高齢化が、現場の業務量や負担にどう影響しているかを説明できる

•介護現場において、IT・ロボット・AIが補助できそうな業務領域を考え始められる

○時間（合計）

•講義：15～20分

•グループワーク：20～30分

•共有：5分（任意）



○成果物（アウトプット）：　課題整理シート

介護業界とは

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

・高齢者や障がいを抱える人の**「日常生活」**を
支えるサービスを提供する重要な業界
・医療とは違い**「治す」**より生活を**「維持する」**



介護施設・サービスの種類

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

・特別養護老人ホーム（特養）
・介護老人保健施設（老健）
・介護付き有料老人ホーム
・グループホーム
・デイサービス
・訪問介護　など



民間・非営利法人 一覧表

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

施設・サービス名	民間	非営利法人	主な運営主体
特別養護老人ホーム（特養）	×	○	社会福祉法人
介護老人保健施設（老健）	×	○	医療法人 / 社会福祉法人
介護付き有料老人ホーム	○	×	株式会社
グループホーム	○	△	株式会社 / 社会福祉法人
デイサービス	○	△	株式会社 / 社会福祉法人
訪問介護	○	△	株式会社 / 社会福祉法人 / NPO

・特養、老健は非営利法人のみ

・グループホーム、デイサービス、訪問介護は△

→大半が民間

施設・サービスを利用する流れ

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

（１）本人・家族が市町村へ要介護認定を申請

（２）市町村が認定調査を実施

（３）調査員が心身の状態を確認、主治医意見書を依頼

（４）主治医が意見書を作成

（５）介護認定審査会で専門家が審査

（６）市町村が**要支援1・2、要介護1～5**を認定

→認定区分に応じて、各施設・サービスを利用



要支援区分 一覧表

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

区分	状態の目安
要支援1	・基本的に自立している ・立ち上がりや歩行にやや不安あり ・生活の一部に見守り・支援が必要
要支援2	・身体機能の低下がやや進行 ・転倒リスクが高い ・家事や外出に継続的な支援が必要

→デイサービス、訪問介護などが利用可能
力が必要な介助はほとんどなし



要介護区分 一覧表

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

区分	状態の目安
要介護1	・立ち上がり、歩行が不安定 ・部分的な身体介助が必要
要介護2	・歩行や移動に介助が必要 ・入浴、排せつに一部介助
要介護3	・日常生活の多くに介助が必要 ・自力での移動が困難
要介護4	・ほぼ全介助が必要 ・寝たきりに近い状態
要介護5	・常に介助が必要 ・意思疎通が困難な場合もある

→特養は要介護3～5、老健は要介護1～5



介護業界の職種

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

【直接介護・生活支援を行う職種】

- **介護士（介護職員）**
- 訪問介護員（ホームヘルパー）
- 生活支援員（障がい福祉分野）
- 機能訓練指導員



【相談・調整・計画を行う職種】

- 生活相談員
- 支援相談員（老健）
- ケアマネジャー（介護支援専門員）

介護士の業務内容

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

【主な業務】

- **食事介助**
- **入浴介助**
- **排せつ介助**
- **移乗介助、移動介助**
- 掃除
- 見守り、声掛け
- **レクリエーションの計画、実施**
- **介護記録の作成**
- **申し送り、情報共有**　　など



介護業界の現状・課題①

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

【人手不足】

・高齢化によって利用者が年々増加
→少子化も重なり、**需要に人が追いつかない**

・定着率が低く、離職率が高い
→身体が資本のため、怪我をすると**復帰が困難**

・給与水準が低い
→責任、業務量に見合わない



介護業界の現状・課題②

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

【身体的・精神的負担が大きい】

・複数人の利用者を**移乗、移動**させたりすることで腰や膝を痛めてしまう介護士が多い

・利用者の暴言やハラスメント
→認知症や他の病気の症状が原因の可能性もあるため、施設としても対応がしづらい



介護業界の現状・課題③

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

【外国人労働者の受け入れ】

・人手不足を解消するために外国人労働者を受け入れている施設が増加

→**言語や文化の理解が課題**で利用者とトラブル

・外国人労働者の育成に時間を要する

→教育担当者がつき、現場の**負担増大**



まとめ

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

・人手不足（需要増、定着率低、離職率高）

・身体的・精神的負担

・外国人労働者に対しての育成や支援　など

→**介護ロボットやITの活用が注目されている**



Hug



HAL



LOVOT

介護ロボットの活用

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

【Hug】
・移乗や移動介助に活用
・安定した移乗で事故を減少

【HAL】
・介護士の腰痛対策に活用

【LOVOT】
・利用者の話相手として活用
・利用者のストレス解消に活躍



Phase 2　介護施設の現状理解

施設の事前調査

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

〇概要
•見学する**介護施設について事前に情報を整理**し、施設の特徴・利用者・職員体制などを把握する。
•見学前に 「困りごと・課題の仮説」 を立て、当日の観察・ヒアリングの視点を明確にする。
•見学を「見て終わり」にせず、課題発見につなげる準備を行う。

〇理解目標
•見学**施設の基本情報と役割**を説明できる
•利用者・職員の立場から、**大変そうな業務や場面を想像できる**
•人口減少・島嶼部の条件が、施設運営にどう影響していそうかを考えられる
•見学時に確認すべき **課題の仮説** を立てられる

〇時間（合計）
•グループワーク：60分
•発表：15分（任意）
•事前確認：5分

〇成果物（アウトプット）：
① 事前調査シート
② 課題の仮説



Phase 2　介護業界の現状理解

人口減少における島嶼部の課題理解

ワーク④«見学する施設の事前調査»

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

施設の基本情報を収集（20分）

•施設のWEBサイトや生成AIを使い、見学する施設の情報を収集

•見学する施設

グループA、B、C　→　奄美佳南園

WEBサイト：https://www.seirei.or.jp/elderlyhome/amami/index.html

グループD、E、F　→　虹の丘

WEBサイト：https://nijinooka.net/



一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク④«見学する施設の事前調査»

項目	内容
施設名	
施設の種類	
利用者の 特徴	
職員の職種構成	
提供している 主なサービス内容	

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク④«見学する施設の事前調査»

項目	内容
ある介護職員の １日の業務の例	
その他 WEBサイトで 得られる施設の 特徴	

Phase 2　介護業界の現状理解

人口減少における島嶼部の課題理解

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑤«課題の仮説»

課題の仮説と活用されていそうな機器やシステムの収集（30分）

•WEBサイトや生成AIを使い、介護施設で生じる課題の仮説とその課題の解決に寄与する機器やシステムの情報を収集



一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑤«課題の仮説»

項目	内容
予想される課題①	
活用されていそうな機器・システム	

予想される課題②	
活用されていそうな機器・システム	

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑤«課題の仮説»

項目	内容
予想される課題③	
活用されていそうな機器・システム	

予想される課題④	
活用されていそうな機器・システム	

Phase２　介護施設の現状理解

施設見学における現状、課題の整理

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

〇概要

•介護施設見学で **見たこと・聞いたことをグループで共有・整理**する
•利用者・職員の立場から、**現場の現状や工夫、課題を構造的に整理**する
•**人口減少・人手不足・島嶼部という条件**が施設運営や業務に**どのような影響**を与えているかを考える。

〇理解目標

•見学内容を **事実ベースで整理・説明**できる
•**介護施設の現状（業務・利用者・職員） を具体的に**捉えられる
•現場で起きている課題を「誰が／いつ／どこで／何に困っているか」 の形で表現できる
•課題の背景にある人口減少・人手不足・島嶼部特有の条件を理解できる

〇時間（合計）

•グループワーク：４５分
•発表：15分



〇成果物（アウトプット）：

① 見学記録

② 現状の課題整理シート

Phase２　介護業界の現状理解

人口減少における島嶼部の課題理解

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

①見学記録の作成（１５分）

・見学で見たこと・聞いたことなどを共有し、記録として残す
（感想や評価はこの段階では書かない）

②現場の現状および課題整理（３０分）

・現場の現状理解

利用者の様子、職員の動き、業務の流れを整理する

・課題の整理

「誰が／いつ／どこで／何に困っているか」を意識して
現場の課題を言語化する



一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

項目	内容
施設名 見学したエリア	
主な説明内容	
人手が足りていないと 感じた点	
使用されていた 機器・システム	
人がやらなくても 良さそうに感じた作業	

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

項目	内容
事前調査との比較	
現場で工夫されて いた点など	

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑥«見学の記録作成、現場の現状および課題整理»

項目	内容
現場の課題整理	
課題の原因分析	

Phase 3　企画の考案

企画コンセプトシートの作成

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

○概要

•施設見学と課題整理で明らかになった現場の課題をもとに、介護施設向けの 企画の方向性（コンセプト） を整理する。
•解決策の詳細設計に入る前段階として「誰の・どんな困りごとを・どう変えたいのか」を明確にする
•IT・ロボット・AIなどの技術を目的達成の手段として位置づける。

○理解目標

•課題整理の内容を、企画の目的・方向性に落とし込める
•企画を「対象者／Before／After」 の形で説明できる
•技術ありきではなく、現場の困りごとを起点に企画を考えられる
•次の詳細検討（設計・提案）につながる企画の軸（コンセプト） を言語化できる

○時間（合計）

•グループワーク：４５分
•発表：15分

○成果物（アウトプット）：

① 見学記録

② 現状の課題整理シート

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

項目	内容
課題テーマ	
課題の概要	
対象者 （課題を抱えている人）	

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

項目	内容
課題に対する 企画名	
企画の概要	
活用する技術や 手段	

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

ワーク⑦«企画コンセプトシートの作成»

項目	内容
現在の状況	
企画導入後のイメージ	
企画の導入による現場のメリット	
想定される課題やリスク、制約条件	

Phase 3　企画の考案

企画発表シートの作成

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

○概要

•課題整理および企画コンセプトシートの内容をもとに、企画の発表シートを作成する。
•**企画の背景・目的・内容・期待される効果を整理**し、短時間で分かりやすく伝えられる構成にまとめる
•技術の説明に偏らず、**現場の課題と企画の関係性が伝わる表現を意識**する。

○理解目標

•**企画の狙いと解決したい課題を簡潔に説明**できる。
•対象者（利用者・職員）の視点から、**Before／After を用いて企画の価値**を示せる。
•IT・ロボット・AIなどの技術を、目的達成の手段として位置づけて説明できる。
•限られたスペースで、要点を整理し、視覚的に表現できる。

○時間（合計）

•グループワーク：１８０分
•発表：5～10分／グループ

○成果物（アウトプット）：

① 企画発表シート（1枚）以下の要素を含む：
・企画タイトル／・背景・課題（簡潔に）／・企画の目的／・対象（誰のための企画か）／
・企画の内容・仕組み（図やイラスト可）／・活用する技術（IT／AI／ロボットなど）／
・期待される効果（Before／After）／・導入・活用の課題、検討事項（簡潔に）

企画のタイトル

グループ名：
メンバー：

背景・課題

企画の概要・活用する技術など

期待される効果

導入・活用の課題と検討事項

Phase４　発表

企画発表

一般社団法人
安全安心社会構築教育協会

〇概要

•課題整理および企画コンセプトシートの内容をもとに作成した企画発表シートの発表を行う。

〇目標

•グループで考えた企画を簡潔に、そして正確に説明できる。

〇時間（合計）

•発表：5～10分／グループ

〇成果物（アウトプット）：

① 企画発表シート　以下の要素を含む：
・企画タイトル／・背景・課題（簡潔に）／・企画の目的／・対象（誰のための企画か）／
・企画の内容・仕組み（図やイラスト可）／・活用する技術（IT／AI／ロボットなど）／
・期待される効果（Before／After）／・導入・活用の課題、検討事項（簡潔に）